豚の蛔虫病

臺灣では養豚が盛であるが、一面また、豚コレラ、豚丹毒、豚肺炎、などの病氣で死ぬ豚も少くない。中でも豚の蛔蟲はよく見うけられる病氣で、小豚などこれにかゝると死亡率が高い。では豚の蛔蟲とは何か？

蛔蟲の形態　豚の蛔蟲は長さ半尺ないし一尺で、胴體が太く兩はしが細くなつてゐる。色は乳白色をして居り、淺黄色のものもある。蟲は豚の小腸に寄生する。

蛔蟲の生長　成熟した雌の蛔蟲は毎日數萬或は數十萬個の卵を産む事ができる。卵は豚の糞と一緒に排出されて、十日以上たつと感染期に達する。この卵は裏さや化學藥品に對しては抵抗力が強く、數年も生きて居られるが、日光の直射光線には弱く、數週間砂の上に放つておくと死んでしまう。豚がこれ等の卵を食べた場合、卵は胃から小腸に入つて幼蟲に成長する。幼蟲は腸壁をつき破つて血管に入り、肝心、肺臟に侵入するが、肺毛細管、氣泡で一週間ないし三週間とゞまる。その後、氣管を傳つて咽喉に到り、そこからまた胃、小腸に返る。この様にして二個月もたつと成虫となる。

蛔蟲の害　幼蟲は、腸、肝、肺などを破壞するので、腸炎、肺炎、肝炎を發生させて、このため豚の食慾は減り、咳をして呼吸困難となる。成蟲になると腸内の榮養分を吸收し、粘膜を咬み破り、ひどい時には腸に孔をあけるので豚は腹膜炎をおこして死ぬ。また多數の蛔蟲が集團となつて腸管をふさいでしまうので、消化不良になり腹痛をおこす。小豚の時は未だ抵抗力が弱いので病狀がひどく、いくら飼をあげても肥らない。

蛔蟲の治療　豚の體重一キログラムについて〇、〇八グラムの鹽化鈉（フロライドナトリウム）を飼料の中に入れて、連續に四回位あたへると效果がある。現在市上で賣つてゐる「蛔蟲散」にはこの鹽化鈉が入つてゐる。

蛔蟲の豫防法　仔小豚の蛔蟲豫防法は、母豚の分娩前に乳房のあたりを溫水で洗ふ。小豚は離乳したら、蛔蟲の無い場所で飼料を與へる。2豚小舍の地面はセメントで固めて、十日おきに熱湯で洗ふ。3豚の糞は堆肥にして、豚小舍を清潔にする。4病豚があつたらすぐに隔離して養ひ、驅蟲をする。健康な豚も常に清潔な場所に移した方が良い。5蛔蟲の卵は家禽、犬、猫などによつても傳播されるから、ほかの家畜を近づけないこと。6豚に如何なる飼料を與へるかよく研究して病氣に對する抵抗力を强めるのも重要である。（許世璟氏投稿）

用途の廣い印度田菁

一、來歷　名の指す如く、印度田菁は印度の原産で、種類は豆科に屬する灌木である。普通高さは三メートル位に成長する。民國十二年に日本人大谷光瑞氏が本省の中南部に移植したのが始まりで、最近では農林廳でも『印度田菁混農林造林計劃』などを作つてこれの植林を奬勵してゐる。現在栽培を北部から始めて居り、將來は全省的に栽培する計劃である。

二、栽培方法　この樹は非常に生活力が强く、旱魃や濕氣にもよく耐へるので栽培が比較的にやさしい。また便利なことには、直播よし移植の二つの方法で栽培出來る。直播は點播と云つて、穴の一つ毎に五粒ほどの種を播く。移植法を使つて栽培する場合は先づ一メートル位の苗床を作り、一平方メートルの廣さに〇、〇三リットルの割合で種を播いて、苗の高さが三センチの高さになつたら他の場所に移植する。種を播く時には、豫め二日位のあひだ種を水に浸しておくと發芽が早い。

三、用途　印度田菁の用途は綠肥にするのが主だが、そのほか藥は家畜の飼料になり、樹幹は燃料にできる。樹皮の纖維は織物の原料となり、種子は豆醬の原料となる。もう一つの得點は生長が早いことである。落葉しなければ、一年のうちに三メートルの高さに成長し、幹は直徑十センチ位になるから、防風林としても海岸の防砂林としても、理想的である。この樣に印度田菁の用途は非常に多いから、廣く農民の方の栽培をおすすめする。

印度田菁の苗床

夏の野菜栽培法

夏になると、野菜がまた少くなるなと誰でも思ふ。うち續く暑い天氣とにはか雨は、野菜の病害蟲にとつては、それこそ絶好の環境で、日光に溶る氷の樣に、たちまち野菜は害蟲に荒されてしまう。然しいくら夏でも、野菜が無いのはやり切れないので、高冷地栽培などを考へ出したが、これでも人間の需要に足りない。そこで、どうしても病蟲害を退治する方法を考へて、キヤベツ、トマトなどのビタミンを豐富に含んだ野菜を平地に於いて栽培する必要がおきる。最近の實驗によると、平地栽培でも難かしいことは無く、次の如き要點を守れば夏の野菜栽培は問題ないと思ふ。

一、キヤベツ　平地に於ける夏季栽培の成功か否かは、品種の選擇によつて決る。臺灣では矢張り在來種のキヤベツを植えるべきである。と云ふのは在來種のキヤベツは、暑さや病害に對する抵抗力が强く、また纖維が軟いので、熱が强くても比較的に野菜が固くならない。現在優良な品種は、翠深二號、四號、在來A、Bの四種がある。日本産の三池中生キヤベツなど本省の暑い氣候には適さず、萎黄病にかゝりやすい。

栽培の要點　先づ基肥を全園に施して、土壤をやはらかにし、野菜の根の發育を良くする。次に大切なことは、地面を稻草（新鮮なものが良い）でかぶせる事である。稻草をかぶせると。（一）害蟲の發生を防ぐ。（二）地濕の急激な上昇を防止して、土壤が乾くなることを防ぐ。（三）中耕をしないですむから、中耕による根の發育阻害をすることが無い。（四）には雨の時など、よく細い土が飛んで野菜の葉に着き、そこから病菌が入るが、この樣な恐れも無くなる。

雨が續くと、畑の所々に水が溜る。この樣な不要な水は排水して、まふのが良いが、適當な水分の補給は重要である。その爲には、夕方頃に、灌水法で灌水すると良い（灌水法灌水と云ふのは、畑の中央に淺い溝を一條掘つて、水をこの溝に沿つて流すこと）。灌水と同時に忘れてならない事は、窒素肥料を施すことである。心喰蟲、青蟲、夜盜蟲の退治にはDDT或はBHCの粉劑を撒くと良い。蚜蟲は幼蟲のうちに完全に驅除すべきで、デリス液、除蟲菊乳劑を使ふ事をおすゝめする。

二、トマト　土地の選擇が最も重要で、前期に茄科植物を植えた畑にまた續いてトマトを植える事は避けるべきである。またトマトの栽培は高燥な土地に適してゐるから、排水しにくい土地には絶對にトマトを植えてはならない。トマトの最も恐るべき青枯病菌は高燥な地區では生存できない。品種はプリツチヤード、ルツガの樣に實が中以下の大きさのものが良く、ポンデローザの如き大きなトマトは、發育が早くて水分の蒸發が旺盛なため、腐りやすい。

栽培の要點　（一）夏になると、にはか雨が多いので着果率が惡くて、折角の實が落ちやすい。故に必要でない芽をとつてしまうと、かへつて結幹莖枝法が良い。この方法は主枝と一番目の花の下にある枝だけを殘して、他の枝は全部ぬき取つてしまう事である。（二）發育期に日光に當ぴてゐる。旺門は開いていて、水法灌水を行ふと良い。（三）肥料としては加里を充分に與へ、病蟲害の驅除には、毎週ボルドー液を撒くと效果がある。（四）地濕が高まると、青枯病にかゝり易いから、鍬をトマトの下なりやすいから、鍬をトマトの下にかぶせると良い。キヤベツと同じく鍬をかぶせると、雨の時に細い土が飛んで葉に附着して、病菌を傳播することが無く、また中耕する必要も無い。（次期に續く）

多産鷄の見分け方

普通に本省で飼つてゐる鷄の産卵數は毎年平均七十個位、多くても一百個を越えない。所がイタリヤ産のレグホンとなると一年平均二百個以上、多いのになると三百個以上も卵を産むのがある。レグホンは何故この樣に多く卵を産むか？その理由は、養鷄家が苦心して多産系の鷄から中でも一番多く卵を産む鷄を選んで、それを繁殖させをやはらかにし、野菜の根の發育を良くする。次に大切なことは、地面を稻草（新鮮なものが良い）でかぶせる事である。稻草をかぶせると。（一）害蟲の發生を防ぐ。（二）地濕の急激な上昇を防止して、土壤が乾くなることを防ぐ。（三）中耕をしないですむから、中耕による根の發育阻害をすることが無い。（四）には雨の時など、よく細い土が飛んで野菜の葉に着き、そこから病菌が入るが、この樣な恐れも無くなる。

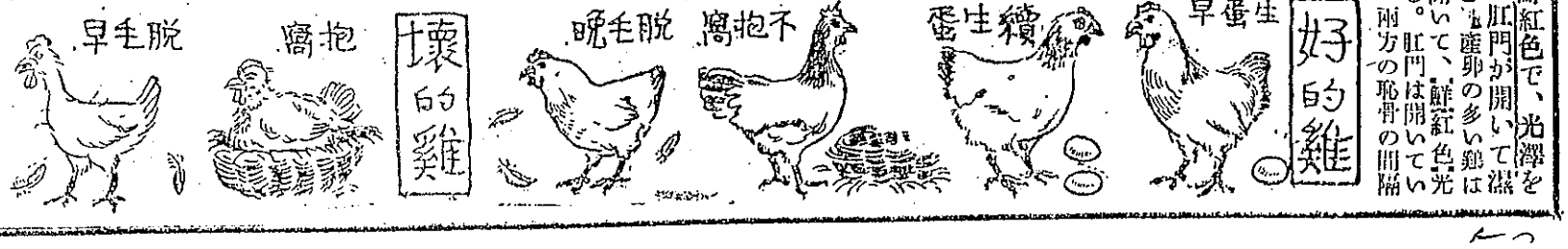
雨が續くと、畑の所々に水が溜る。この樣な不要な水は排水して、まふのが良いが、適當な水分の補給は重要である。その爲には、夕方頃に、灌水法で灌水すると良い（灌水法灌水と云ふのは、畑の中央に淺い溝を一條掘つて、水をこの溝に沿つて流すこと）。灌水と同時に忘れてならない事は、窒素肥料を施すことである。心喰蟲、青蟲、夜盜蟲の退治にはDDT或はBHCの粉劑を撒くと良い。蚜蟲は幼蟲のうちに完全に驅除すべきで、デリス液、除蟲菊乳劑を使ふ事をおすゝめする。

二、トマト　土地の選擇が最も重要で、前期に茄科植物を植えた畑にまた續いてトマトを植える事は避けるべきである。またトマトの栽培は高燥な土地に適してゐるから、排水しにくい土地には絶對にトマトを植えてはならない。トマトの最も恐るべき青枯病菌は高燥な地區では生存できない。品種はプリツチヤード、ルツガの樣に實が中以下の大きさのものが良く、ポンデローザの如き大きなトマトは、發育が早くて水分の蒸發が旺盛なため、腐りやすい。

栽培の要點　（一）夏になると、にはか雨が多いので着果率が惡くて、折角の實が落ちやすい。故に必要でない芽をとつてしまうと、かへつて結幹莖枝法が良い。この方法は主枝と一番目の花の下にある枝だけを殘して、他の枝は全部ぬき取つてしまう事である。（二）發育期に日光に當ぴてゐる。旺門は開いていて、水法灌水を行ふと良い。（三）肥料としては加里を充分に與へ、病蟲害の驅除には、毎週ボルドー液を撒くと效果がある。（四）地濕が高まると、青枯病にかゝり易いから、鍬をトマトの下なりやすいから、鍬をトマトの下にかぶせると良い。キヤベツと同じく鍬をかぶせると、雨の時に細い土が飛んで葉に附着して、病菌を傳播することが無く、また中耕する必要も無い。（次期に續く）

二、鷄冠が鮮紅色で、光澤を帶びて居り、肛門が開いて濕氣があること。産卵の多い鷄は鷄冠が大きく開いて、鮮紅色光澤を帶びてゐる。肛門は開いていて濕氣があり、兩方の恥骨の間隔が廣い。反對に産卵の少い鷄は鷄冠がちゞんで、暗紅色をしてゐる。肛門は乾いて小さく、恥骨の間隔も狹く、指がやつと一本入る位である。

三、連續に卵を産むこと　鷄の中でも、一個卵を産んでは一日或は數日休んでから、又卵を産むのと、連續に二個或はそれ以上も産んでから一日休む樣な二種がある。この場合、連續に卵を産む鷄が多産系だから、これを殘して繁殖させる。

四、就巢性が少いこと　一般に卵を産むことの少い鷄は、卵を溫めて孵したがる傾向があるが、多産系の鷄は卵を孵したがらない。レグホンなどは決して卵を孵さない。故に就巢性の少い鷄を選んで繁殖させる。

五、換羽に注意すること　普通、産卵の少い鷄は換羽が早く（七八月から始まる）、換羽の時間が長い。反對に産卵の多い鷄は、換羽の時期が遲く（九月或は十月）、その時間が短い。この換羽の時期に注意して、遲く始まる鷄を繁殖さ